

## 1. 背景

6U-HAPPIER では、2016 年夏より Imperial College London の Roderick Smith 先生にお願いして、Innovative Teaching Workshop を 7 回開催してきた。Smith 先生の豊富なご経験やお人柄によるところも大きく、素晴らしいワークショップでアンケート結果も良好であるが、すべて英語であることで参加を見合わせた人も多いと思われ(実際、英語についていくのが大変だったというコメントもあった)、日本語での実施を企画した。共通するコンセプトは、工学分野で長年の間第一線の研究をしつつ教育も熱心に実践してきた教員が、教育に興味をもつ若手教員達と真摯に向き合いディスカッションすることである。

## 2. 実施概要

日時：2018 年 11 月 28 日(水)9 時～17 時

参加者：応募して来た東工大工学系助教 4 名

内容：教育の重要性、科目設計、教育の方法、アクティブラーニング、サイテーション、大学ランキング、大学のミッションステートメント等。アクティブラーニングの実践、対象による研究発表の違い等も体験

## 3. 参加者アンケート結果(主に 5 件法)(下記の括弧内は人数)

参加の理由：自分の教育を改善するため(2)、講師の教育方法を学ぶため(1)、  
他の参加者の教育方法を学ぶため(1)、誰かに勧められた(4)

事前の期待：やや高い(3)、どちらでもない(1)

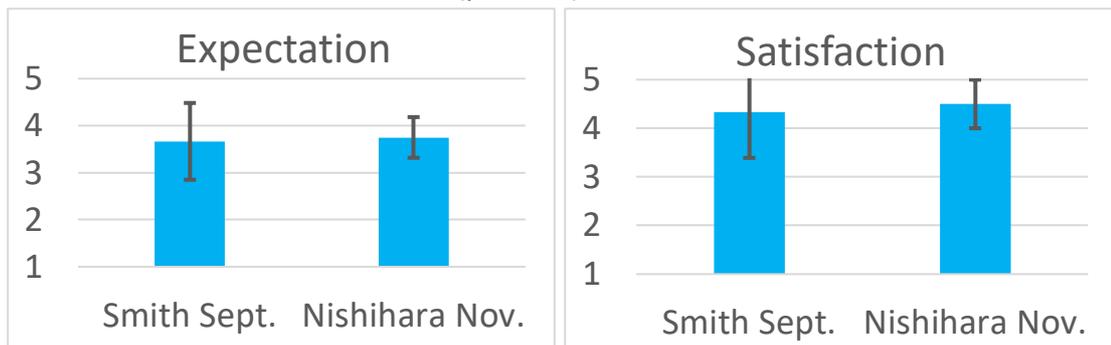
満足度：満足(2)、やや満足(2)

長さ：ちょうど良い(4)

他の人に：勧めたい(1)、やや勧めたい(2)、どちらでもない(1)

将来の HAPPIER イベントに：参加したい(1)、やや参加したい(3)

事前の期待と満足度を、9 月の Smith 先生のもの(10 名参加、アンケート回答は 9 名)と比較すると下のようになる。人数が少ないので有意な差はないが、今回のワークショップの方が平均値が若干高く、標準偏差は小さい。いずれも事前の期待よりも事後の満足度が高くなっており、今回のワークショップではその伸びに有意傾向がある( $p=0.097$ )。



#### 4. むすび(反省)

Smith 先生は 2 日間で開催していたが、今回 1 日の開催とした。時間が短いので、資料や説明等にもう少し工夫が必要であったと反省している。また、参加者の研究紹介について、単なる質疑だけでなく、総評をすべきであった。さらに研究紹介時にタイマーを使わなかったため、発表時間が長過ぎて、全体の時間配分にも影響を及ぼした。次回に開催の機会があれば、もっと上手くしたい。

参加してくれた 4 名の先生方、ありがとうございました。私自身も学ぶことが多くありました。

